

雲南市脱炭素宣言について

政府は令和2年11月に2050年までの脱炭素社会を目指すことを表明し、脱炭素化を進める動きは全国で加速しています。いま世界に目を向けると、二酸化炭素排出量の増加による地球温暖化が進み、気候変動による異常気象が発生しています。また、7月豪雨では雲南市に近年例を見ない規模の被害をもたらし、人々の生活基盤を揺るがす事態となりました。

雲南市では、これまでの取り組みに加え、今般の豪雨災害をひとつのきっかけに、「脱炭素宣言」を行い、2050年を目標に脱炭素社会を実現するため、市民・事業者・行政の3者が協働し、地域の共通課題として脱炭素化に取り組んでいきます。

1. これまでの検討経過

- (1) 「雲南市脱炭素・循環型社会構築プロジェクトチーム」による検討
 - 7/ 8 第1回PT会議開催 PTの設置、メンバー構成、脱炭素への取組等
 - 8/25 第2回PT会議開催 脱炭素宣言、Co2排出量、温暖化の影響、定住環境等
 - 9/29 第3回PT合同会議開催（市民団体と合同開催）
 - 10/29 第4回PT会議開催 脱炭素宣言、環境省重点施策協議等
 - 12/ 6 第5回PT会議開催 脱炭素関連予算、宣言文検討、先行地域の要件等
 - 1/14 第6回PT会議開催 脱炭素宣言、環境セミナー等
 - 2/ 1 第7回PT会議開催 脱炭素宣言等
- (2) 事業者、市民との意見交換、視察等
 - 10/22 パナソニックソーラーシステム製造（株）訪問、意見交換
 - 10/28 （社）ゼロ・ウェイスト・ジャパン面会、意見交換
 - 11/ 2 ～3 脱炭素PT先進地視察（奈良県生駒市、京都府京都市）
 - 12/21 企業チャレンジ取組報告会において、企業との意見交換 等
- (3) 雲南市環境会議の開催
 - 11/28 第1回 雲南市環境会議
- (4) 雲南市環境審議会の開催
 - 1/25 経過報告等

2. 市議会説明

- 12/16 教育民生常任委員会 経過報告
- 2/10 教育民生常任委員会
- 2/16 全員協議会

3. 今後の予定（調整中）

- ・第2回 雲南市環境会議（1/29 コロナウイルス感染防止の為延期）
- ・脱炭素宣言

4. 来年度の主な取組

- ・実行計画づくり（地球温暖化対策実行計画等）
- ・環境会議等を通じた市民、事業者、団体等とのネットワークづくり
- ・既存事業の継続 等



雲南市脱炭素宣言（たたき台）

平成16年に雲南市が誕生して以来、私たちは「生命（いのち）と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」の実現に向け豊かな農山村を守り伝えるべく取り組んできました。

雲南市は、雲南市環境基本条例（2019年6月施行）により再生可能エネルギーの普及を図り、資源の効率的利用や廃棄物削減等の地道な取り組みを通じて、人と自然が共生できる地球に優しいまちづくりを実現することとしています。

また、わが国は2050年までに脱炭素社会の実現をめざすことを宣言し、経済と環境の好循環を生み出すことを掲げています。

いま世界に目を向けると、二酸化炭素排出量の増加に伴う地球温暖化が進み、気候変動による異常気象が発生しています。

令和3年7月豪雨では、床上浸水や土砂災害等、雲南市に近年例を見ない規模の被害をもたらし、人々の生活基盤を揺るがす事態となりました。

雲南市はこれまでの取り組みに加え、今般の豪雨災害をひとつのきっかけに、雲南市のめざす脱炭素社会を構築するため、地域での取り組みをはじめ、温暖化対策と地元経済の好循環を推進してまいります。

市民・事業者・行政等関係者がお互いに学びあい協力連携を図りながら、持続可能な地球環境を未来に引き継ぐため、2050年を目標に脱炭素社会実現に向けた様々な取り組みにチャレンジし、成果を上げることがを宣言します。

「雲南市における脱炭素社会構築にむけた地域での取り組み(例示)」

～21世紀型の地産地消・持続的な地域社会をめざして～

- ①循環型社会の構築（ものを大切にする心を育む、地域循環経済・地産地消の推進）
- ②ゴミを出さない資源化の取組（ゴミの堆肥化、食品ロス削減、空き家の資源化）
- ③再生可能エネルギーの導入推進（太陽光・蓄電池、バイオマス、小水力発電）
- ④省エネの取組推進（LED化、ペーパーレス化、省エネモデル地域、公共交通の利用）
- ⑤森林資源を生かした雲南市らしい林業振興（里山整備、市産材利用、特産品づくり）
- ⑥環境にやさしい移動手段の導入（電気・水素自動車、自転車）
- ⑦Jクレジット制度によるカーボンオフセットの検討

令和4年（2022年） 月 日

雲南市長 石飛 厚志



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS